

令和6年度 「学校関係者評価」

	項 目 (重点としたものに○)	自己評価 (学校の目標達成状況及び学校の取組の適切さ、改善方策について等)	外部評価者からの意見・指摘
教育環境の充実	① 学校安全の推進	安心・安全な学校を目指し、目的を明確にして避難訓練を行うとともに、児童の実態に応じて、講師による防災出前授業を行った。	・避難訓練・防災授業等は継続するとともに、登下校経路の危険個所の周知徹底を図ってほしい。
	② 教育情報化の推進	全ての学年でタブレットを活用し、ロイロノート等、発達段階に応じて、工夫して使用している。	・地域と PTA の関係もとてもよい。コミュニティースクールに向け、地域との情報交換を積極的にし、協力し合い、さらに良い沼間小を作っていけるとよい。
	③ 地域との協働推進	地域の歴史を調べたり、防災について調べる際、協力を仰いだり、ともに美化活動を行ったりして、地域との協働に取り組んでいる。コミュニティースクールの導入に向けては、中学校とも連携し、情報交換を密にし、出来ることから前向きに取り組んでいく。	・保護者アンケートに真摯に向き合う姿勢は良い。
	④ 学校評価を生かした学校づくり	学校関係者評価や、保護者によるアンケートを真摯に受け止め、教職員各々の長所を生かし、協力しながら学校づくりを行っている。	
一 学習指導の充実	① 授業改善の推進	学年、ブロックで協力することはもちろん、さらにその垣根を越えて、互いの授業を見合うことを通して、授業改善を図っている。	・各担任等の授業の質の向上が必要と考える。授業の最後に児童の感想や学んだことの振り返りによって、授業改善を期待する。
	② 健康体力づくりの推進	日々の保健指導や給食指導を大切にし、食教育は保護者とも連携して進めている。	・授業改善グループ会議は素晴らしい取り組みである。教員同士の関係性もよくなるので、ぜひ継続を。
	③ 体験活動の充実	地域の方と連携してお米づくりをしたり、昔の遊びを体験したり、竹などの地域の自然素材に目を向けた活動をしたり、各学年で工夫して行っている。	・体験学習において、地域や専門家との連携を今後も積極的に行われるとよい。
	④ 今日的課題への取り組み	児童が自ら課題を発見し、解決しようとする学習ができるよう、授業改善を進めている。	・児童会活動の異学年交流がよい。支援級児童の理解を深める内容が、異学年交流の中でもできるとよい。
援の充	① 支援環境の充実	教育相談コーディネーターを中心に、SC や SSW と連携しながら、チームとして対応している。	・「りびんぐ」については、今後、活用方法を広げていくことも視野に入れていくとよい。

	②安心できる居場所づくりと絆づくりの推進	校内支援室「りびんぐ」を活用し、学校や教室に行きにくい児童の居場所づくりに取り組んでいる。	・「あいさつ」と「思いやり」があれば「いじめ」は減少する。 ・「思いやり」の質と量の内容を考えることにより、その行為、行動による高みに向かっての心を考えることで、学校全体が学校教育目標を自分たちのものにすることができる。
	② いじめ対策の推進	学校教育目標の「思いやり」を常に全体で意識して指導に当たることで未然防止に努め、さらに教員間の連携を密に図り、早期発見・早期解決に努めている。	・いじめについては早期発見のための情報をいかに早く受け取れるかが大切になる。
	④不登校対策・問題行動対策の推進	各家庭に丁寧に対応し、児童指導の情報は教員間で共有して、専門機関とも協力しながら対策を進めている。	・「いじめ」という言葉は本来とても重いと思うが、今の「いじめ」のとらえ（受け手が悲しく感じ、いじめと受け取ったらそれは「いじめ」になる）により、どんな状況も「いじめ」になると、反対に「いじめ」という言葉の重さが軽減してしまうのではないか。 ・今後も幼・保・小、小、中の情報共有を大切にし、不登校等の対応につなげてほしい。
	⑤幼・保・小、小・中の連携推進	幼・保とは入学前、中学とは卒業する児童の情報をしっかり共有し、順調な学校生活が送れるように努めている。	
Ⅲ 学校組織の充実	①学校・学年・学級経営の充実	学校教育目標の行動指針となるコンセプトを決め、実現化に向けて取り組んでいる。さらに、来年度の方向性を丁寧に話し合っていく。	・研究での学校、学級の課題を検証することで、教員一人ひとりに授業力を身に着けることができる。そこから人間力を深めていくことを期待する。
	③ 研究・研修の充実	委託研究 2 年目となる今年度、「子どもの「伝えたい」を引き出す授業づくり～国語科における協働的な学びを通して」をテーマに研究を行い、物語文の読解を中心に、全学年で取り組んだことを、今後に生かしていく。	・「伝えたい」を引き出す授業は素晴らしい。学校で子どもたちがそれを学んでいる一方、家庭の大人たちはそれを受け止められるのかが疑問。大人たちへの教育の場の必要性を感じる。
	③信頼に基づいた指導の推進	児童・保護者に信頼されるよう、寄り添うことを大切にし、丁寧なコミュニケーションに努めている。	・働き方改革については、会議時間の設定等から始めるとよい。
	④ 働き方改革の推進	会議の効率化や、行事の精選を行うことによって、結果的に働き方改革につながられるよう、努めている。	